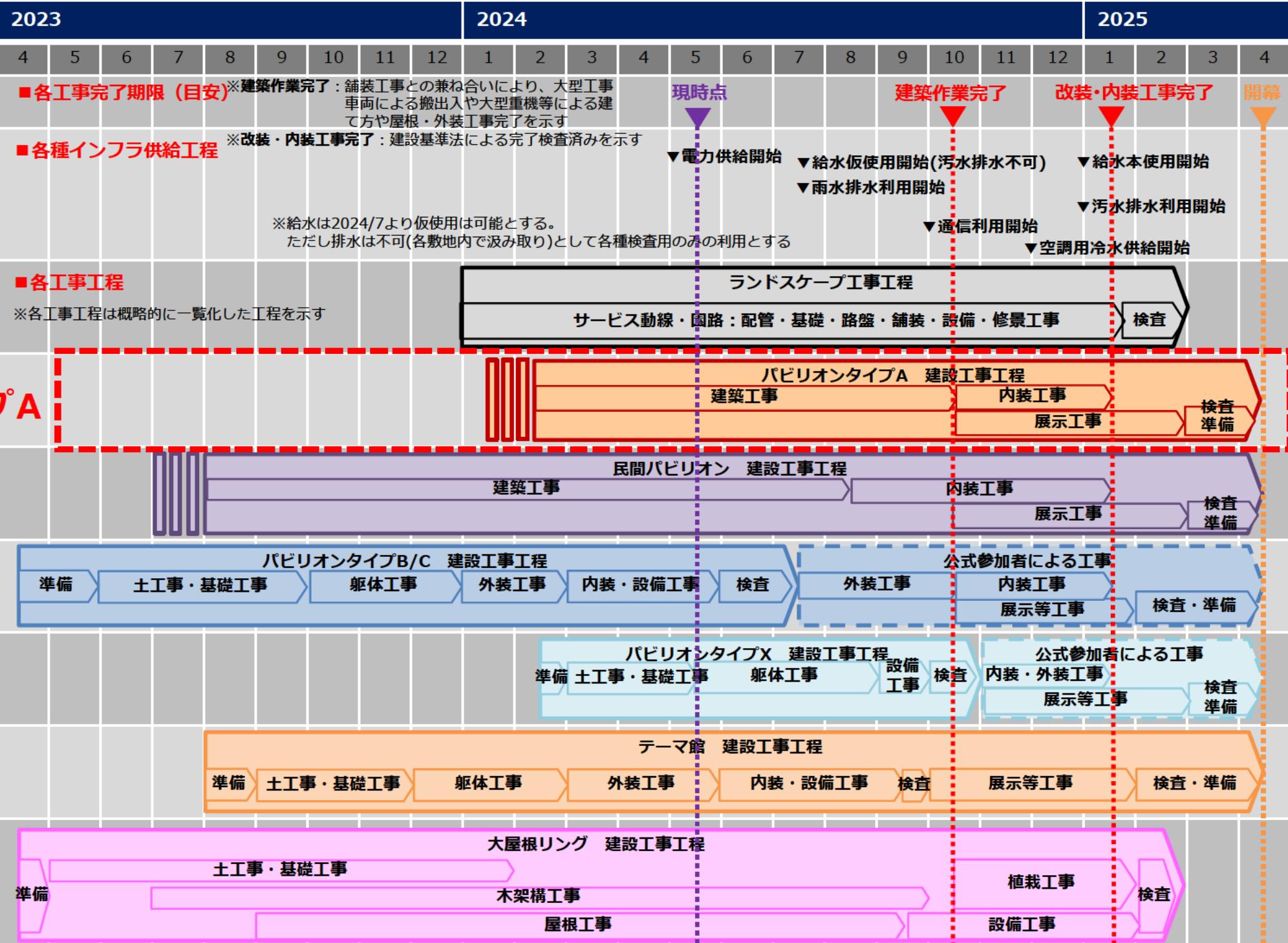


海外パビリオンの建設状況について

経済産業省商務・サービスグループ[®]

会場全体工事工程表



海外パビリオンの状況について

- 2024年5月23日時点で53か国がタイプAパビリオンの建設を進めており、うち、39か国で施工業者が決定、29か国で着工済み

タイプA	53か国
うち、施工業者が決まった国	39か国
うち、協会に第一回提出書類（基本設計書）を提出了した国	48か国（うち、43か国が承認）
うち、大阪市に仮設許可申請手続で基本計画を提出了した国	46か国（うち、43か国が申請し41か国が許可通知書交付、32か国が確認済証交付）
うち、着工済みの国	29か国（※1）
タイプX建設を表明した国	3か国
タイプB、Cの区画数	「B+Cで100か国以上」
敷地を引き渡した国	41か国（※2）

※1：公表可能な国

1/10シンガポール、1/22中国、1/29ルクセンブルク、2/1サウジアラビア、2/5アイルランド、2/28トルクメニスタン、3/1韓国、3/1マレーシア、3/13ハンガリー、3/18オランダ、3/19クウェート、3/21オマーン、4/9オーストリア、4/5ベルギー、4/18イスス、4/23カタール、5/7オーストラリア、5/15イタリア、5/15米国、5/20ノルウェー、5/20スウェーデン、5/20デンマーク、5/20フィンランド、5/20アイスランド

※2：公表可能な国

11/16トルクメニスタン、11/27中国、12/11イタリア・バチカン、12/18シンガポール、1/8ベルギー、1/9サウジアラビア、1/9バーレーン、1/9オマーン、1/12オランダ、1/15ルクセンブルク、1/17アイルランド、1/22フランス、1/26クウェート、1/31マレーシア、2/1韓国、2/5イスス、2/5オーストリア、2/14ハンガリー、2/15オーストラリア、2/26インドネシア、3/1ドイツ、3/15カナダ、3/18米国、3/25アイスランド、3/25ノルウェー、3/25デンマーク、3/25スウェーデン、3/25フィンランド、3/1ウズベキスタン、4/12タイ、4/24モナコ、5/9アゼルバイジャン、5/9チエコ、5/14英國

各国パビリオンの起工式について

- 年明け以降、米国や中国をはじめ多くの国で起工式やパビリオン発表会を実施。

起工式の様子



12/19イタリアパビリオン起工式
(博覧会協会HPより)



2/2中国パビリオン起工式
(在京中国大使館HPより)



3/19スイスパビリオン起工式
(スイス政府HPより)



4/17米国パビリオン起工式
(在京米国大使館HPより)



4/23フランスパビリオン起工式
(在京フランス大使館HPより)



4/23カタールパビリオン起工式
(在京カタール大使館HPより)

各国パビリオンの展示内容について

- タイプAを選択する各国は、独自のデザインを懲らした特徴的なパビリオンを建設。

「伝統文化と最新技術の融合」を体験できるパビリオンの例

イタリア・バチカン館

- テーマは「アートはいのちを再生する」
- 最新技術と伝統が融合した“Made in Italy”。カラバッジョの「キリストの埋葬」を展示。



画像出典：在京伊大

オーストリア館

- テーマは「未来を作曲」
- AIによる作曲活動の体験や、ナショナルデーではウィーン少年合唱団がコンサートを予定



画像出典：BWM Architects

サウジアラビア館

- テーマは「より良い未来のために一緒に」
- サウジアラビアの町や都市を探索するような空間体験を作り出し、没入型の音響映像の舞台を提供



画像出典：在京サウジ大

「未来社会」や「循環経済」を体験できるようなパビリオンの例

米国館

- テーマは「共に創出できることを想像しよう」
- NASAと連携した宇宙関連の展示やハリウッドの特殊効果を使った没入感のある展示を行う予定。



画像出典：在京米大

中国館

- テーマは「自然と共に生きるコミュニティの構築」
- 自然に由来し、自然に順応し、自然と調和して生きる中国文化を展示。



画像出典：中国国際貿易促進委員会（CCPIT）

インド館

- テーマは「命を救う」
- 2023年に成功した無人探査機の月面着陸に関する技術を展示予定。



画像出典：インド貿易促進機構（ITPO）、インド宇宙研究機関（ISRO）

海外パビリオン建設の工期を間に合わせるための取組

- 協会・大阪府市・関係省庁が連携して、バックヤードの確保、インフラの整備等を行い、海外パビリオン建設の工期を間に合わせるために、建設工事円滑化に向けた施工環境の改善取組を実施。

〈工事環境等の主な取組〉

1. バックヤードの確保

- 大阪市保有用地等を作業員の駐車場等として活用する。
①南東部エリア【24年3月上旬より部分運用開始。最大約6ha】
 - 駐車場：順次拡大し、7月には計約1,000台分を供用予定。
- ②夢洲交通広場【24年9月目処(約0.25ha)活用可能】
- ③夢洲コンテナターミナル【24年4月から活用可能(コンテナ蔵置用)】
- ④IR用地【早期活用に向け調整中(約 1 ha)】



2. インフラの整備

- 電力：本設供給開始時期を**24年7月→5月に約2か月前倒し**。
- 上水：給水ポイントにより、工事に必要な上水は確保済み。下水に合わせて、25年1月より本設供給開始。
- 下水：本設供用開始時期を**25年4月→1月に約3か月前倒し**。それまでの間は、浄化槽や仮設トイレを設置。

3. 工事期間中の交通対策等

- 車両交通量増加時に交通混雑が発生しないよう、以下の取組等を実施。
①此花大橋・夢舞大橋の車線拡幅や交差点改良等による交通容量拡大
②夢洲コンテナターミナルの物流効率化 (新・港湾情報システム「CONPAS」によるゲート通過時間短縮等)
③大阪メトロ中央線夢洲駅の供用開始時期を**25年3月末→1月末に約2か月前倒し**。